

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371300761
法人名	医療法人香徳会
事業所名	グループホームあおば
訪問調査日	平成 21 年 3 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371300761		
法人名	医療法人香徳会		
事業所名	グループホームあおば		
所在地	名古屋守山区森孝4-124 (電話) 052-775-8667		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年5月28日

## 【情報提供票より】 (平成21年3月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年4月16日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9人
職員数	12人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算 8.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 150円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年3月14日現在)

利用者人数	8名	男性 0名	女性 8名
要介護1	2名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87歳	最低 78歳	最高 94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	メイトウホスピタル、金平歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中で、広い庭園を持つ邸宅を借用し改築されたホームである。日本家屋の良さを残しながら、各居室は完全にプライバシーが守られている。ホーム内はスロープの取り付け等入居者の身体的状況に合わせ安全面に配慮されている。このホームは入居者を女性に限定している。終末期ケアへの取り組みを職員全員が理解し、入居者や家族に説明を行い、ホームで最後まで看取られる安心感を家族に与えている。3名の方の看取り介護を協力病院の指示のもとに実施し、家族から感謝されている。管理者は積極的に職員の増員を行い「いつまでもその人らしさを大切に」の理念のもと、質の高いサービスを提供している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスを取り入れた理念の再検討については、十分話し合いが行われ検討した結果、「いつまでもその人らしさを大切に」とすることで意見が一致した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価及び外部評価の意義を十分理解している。職員全員が自己評価を実施し、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回開催し、入居者やサービスの実際、評価への取り組みの報告や話し合いなどを行いサービス向上へつなげている。市町村の事業の他にお祭りや保育園の運動会への参加の呼びかけもあり、積極的に参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「あおば通信」でホーム全体の出来事や入居者の生活状況を写真と共に家族へ郵送し、家族の意見など把握している。家族会を年1回開催し、意見や苦情など言い易い雰囲気を作るよう配慮している。ホーム内に苦情箱を設置したり運営推進会議で意見を出していただくようにし、介護サービスや運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会やリハビリ専門学校の学生ボランティアを受け入れて、入居者のリハビリ訓練を実施している。地域のお祭りではお神輿がグループホームの玄関へ来たり、幼稚園や小学校の運動会への参加の声掛けもあり、地域との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつまでもその人らしさを大切に」を理念として、地域の中で入居者の今までの生活を継続できるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルームや玄関に掲示している。管理者と職員は理念を共有するため、朝の申し送り時や月1回の職員会議で意思統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会やリハビリ専門学校の学生ボランティアを受け入れて入居者のリハビリ訓練を実施している。地域のお祭りではお神輿がグループホームの玄関へ来たり、幼稚園や小学校の運動会への参加の声掛けもあり、地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価及び外部評価の意義を十分理解し、職員全員が自己評価を実施し具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、歯科医師、町内会長、民生委員、家族代表者などの参加を得て開催している。入居者やサービスの実際、評価への取り組みの報告や話し合いなどを行い、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者は、名介研や社会福祉協議会と連携をとっている。相談事や困り事については、市役所へ出向き問題解決を行っている。市町村主催の集まりにも積極的に参加している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あおば通信」でホーム全体の出来事や入居者の生活の様子を写真と共に報告している。また、金銭の収支状況の報告、職員の異動について写真付きで知らせると共にケアプランの更新説明を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームと外部2ヶ所の苦情申し立て先の明記と玄関に苦情箱を設置している。家族の訪問時の会話や運営推進会議における意見から要望を汲み取りホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員数を増加して職員の負担の軽減に努め、入居者への介護サービスの充実を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人内外の研修や勉強会への参加について、職員に積極的に参加を呼びかけている。受講適任者と認めた職員には、勤務調整を行い、受講しやすい体制づくりに努めている。また、法人内ではポイント制度を活用した奨励金制度もあり、有効活用を推奨している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、職員に研修会や名介研を活用して同業者と交流する機会とするように指導すると共にサービスの質を向上させていく取り組みへと繋げている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、ショートステイを利用し、納得の上で入居してもらっている。職員や他の入居者、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は女性のみであり、主婦としての知恵を活かせるよう支援すると共に理念を実践し、食事や余暇を一緒に過ごしながら支え合う関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添った支援に努めている。本人の意向が汲み取れない時は、生活歴や習慣等の情報収集に努めると共に表情や態度から本人の思いや意向を把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、関係者と話し合い、本人の発する言葉の情報も収集されているが、計画作成は家族中心への説明、理解を得るためのプランとなっている。	○	本人がより良く暮らすために、本人のケアを活かす行動や思いを把握し支援されているので、その情報を活かしたケアプランの作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。毎日の生活の中で入居者の状況変化に気づいた時は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの受け入れや入居者の受診への付き添いなど本人、家族の希望に柔軟に対応している。本人、家族の希望により3名の方の看取りのケアを実施し、家族から感謝されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が週1回は健康管理のために往診をしている。必要に応じて家族との対面を行い、本人家族に納得が得られるようにし、適切な医療が受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の対応について、本人と家族に説明して書類を整えている。本年に入り本人、家族の希望により3名の方の看取りをかかりつけ医の指示の下で行い、家族から感謝されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような支援、言葉かけはしないよう気をつけている。入居者の記録等は鍵のかかる2階の事務室に収納しており、個人情報の保護について配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、自分の都合を優先するのではなく、「どうしましょう？」と入居者に問いかけて一人ひとりのペースを大切にし、希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせ、入居者と職員と一緒に食事の準備をしている。職員全員が各テーブルで入居者と一緒に食事をしており、食事が楽しく食べられるよう話しかけながら和やかな雰囲気となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、毎日入浴は可能となっており、入居者の体調に合わせて支援している。入居者の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	喜びのある日々が過ごせるよう、花植え、習字、折り紙パネルなど一人ひとりの能力を活かすように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内の立派な庭には、足元が安全な散歩道が整備されており、入居者が思いのままに日常的な散策を楽しんでいる。月に1～2回外食や外出の機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門戸は施錠をしているが、庭は広く整備されており、自由に部屋から庭へ出入りできるようになっている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震など災害時の対策について、運営推進会議で自治会長へ話題提供を行い、協力を呼びかけている。	○	災害訓練の計画はしているが、訓練未実施のため実施されることが望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量が1日を通じて確保できるようチェックシートにより把握されているが栄養バランス及びカロリー計算については実施されていない。	○	栄養バランス及びカロリー計算について、管理栄養士による指導が望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間、台所など共用の空間は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮され居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談し、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで居心地よく過ごせるように支援している。また、家族の協力のもとに居室の配置換えを行っている。		

※  は、重点項目。